

令和元年度 多摩市立図書館事業評価

評価の基準

- A 取り組みどおり実施し、一定の成果があった
- B 概ね取り組みどおり実施したが、成果が少なく課題が残った
- C 取り組みどおりに実施できなかった

令和元年度の目標事業

2 多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業

基本目標 (1) だれもが使える図書館

【取り組み 1】より利用しやすくするための配慮

- 乳幼児を連れた保護者がより利用しやすい環境について、新本館再整備における基本設計、実施設計のなかで検討する【新規】
- 永山図書館の育児雑誌を児童書の近くにある「子育て情報コーナー」に移動させるなど、既存館においてもレイアウト等の変更を検討する【継続】
- 図書館を利用していない市民へ利用を働きかける広報やイベントの開催を検討し、利用促進に取り組む【継続】

【取り組み 2】若年世代の図書館利用の促進

- ホームページのティーンズのページの充実を図る【継続】
- ティーンズなどが声を出して利用できる学習スペースなどを工夫し、グループ学習ができる環境づくりをすすめる【新規】

【取り組み 3】多文化サービスの充実

- 国際交流センターとの連携により、外国人に向けて図書館情報を発信する【新規】
- 外国人市民の図書館利用促進のために日本語学習図書コーナーを新設する【新規】
- 外国語資料、外国語学習資料の充実を図る【継続】

図書館の取り組み・自己評価

【図書館の取り組み・自己評価】[評価 A]

1 乳幼児を連れた保護者への配慮【企画運営担当（本館再整備担当）・各館】

- ・ 図書館本館再整備基本・実施設計のなかで中央図書館に、親子利用のしやすい本の配架とおはなし室やくつぬぎスペースの整備について計画した。また、これらと近接して、授乳室や親子トイレも整備する設計とし、乳幼児を連れた保護者への配慮を図った。
- ・ 各館ではベビーカーの利用や授乳、おむつ交換ができる場所の案内を掲示し、利用しやすい環境を作った。

- ・ 永山図書館では乳幼児を連れた保護者が利用しやすいよう、雑誌コーナーに設置していた育児雑誌を子育て情報コーナーに移動し、利用しやすくした。
- ・ 関戸図書館では児童書じゅうたんスペースで乳幼児を連れた保護者が、過ごしやすいスペースとなるよう、ベビーカーを押したまま利用できるよう周辺環境を整えた。また、じゅうたんスペースの近くに育児雑誌等を集めた子育て応援コーナー移設し、乳幼児を連れた保護者が閲覧しやすくした。ベビーカーや荷物の取扱いを気にする必要がなくなり、気軽に入館できる様子が見られた。
- ・ 児童館併設の地域館では、昨年度に引き続き赤ちゃんおはなし会を定期的に児童館で実施し、赤ちゃんがいる保護者に図書館をPRした。
- ・ 永山図書館では近隣の永山児童館の赤ちゃん向け事業に参加し、図書館の利用方法のほか、おはなし会や赤ちゃん絵本などについて紹介し、PRした。赤ちゃんを連れて図書館内で利用者登録申込書を書くのは大変なので、自宅で書けるよう用紙を持参したところ、用紙を持ち帰った方が参加者13組中3～4名程度いた。図書館未登録者への図書館利用につながった。また、「布の絵本」を紹介したところ、既に利用登録をしている保護者も大変関心を示し、次回来館した時に借りるとのことだったので、図書館利用へのモチベーションアップの効果があつた。
- ・ 関戸図書館では関戸公民館保育室開放デーでのおはなし会実施や「こどもフェスタ」において、フェスタのテーマに沿った本の紹介や図書館利用・各図書館おはなし会の紹介を実施し、未利用者を含めた参加者の利用促進につなげた。ほとんどは関戸図書館の赤ちゃんおはなし会にも参加している方だったが、まだ図書館を利用したことがない方には図書館の「赤ちゃんおはなし会」の案内ができた。保育室ではおもちゃで遊びたい赤ちゃんもいるので、どのような内容を実施するか課題。「こどもフェスタ」の参加児童に対して、イベントの空き時間に読書を楽しんでもらうことができた。

2 若年世代の利用促進【サービス係・企画運営担当・関戸図書館・永山図書館】

- ・ 図書館ホームページのティーンズのページの充実を図るため、本館のティーンズ企画展示内容を掲載した。
- ・ 夏休み期間に本館ティーンズコーナーや関戸図書館学習室の一部をティーンズのグループ学習スペースとして開放した。入口近くで気軽に利用できる環境でもあることから、グループ学習に活用されていた。関戸図書館では事前に近隣中学校に周知するとともに利用者へのアンケートにより利用状況を把握した。アンケートには、夏休み後半にも設置してほしいとの要望が寄せられた一方で利用実態としては友達同士で静かに勉強するといった使い方が多く見受けられ、声をだしてのグループ討議としての利用はなかった。
- ・ 永山図書館ではベルブ永山軽読書コーナーに掲示板を設置し、ティーンズコーナーの企画展示を紹介して図書館内への誘導するためのPRをした。同じ建物内でも図書館に足を踏み入れたことのない方へのアプローチができた。
- ・ 東寺方図書館ではティーンズコーナーの資料紹介のレイアウトを変更し、面出し展示を多くするなど工夫し、ティーンズ利用者が本を手に取りやすくなるようにできた。

- ・ 多摩市内の中学校 9 校の生徒 45 人、都立中高一貫校の生徒（多摩市民） 3 人、合計 48 人の職場体験実習を受け入れた。カウンターや配架などの図書館業務の体験だけでなく、おすすめ本の POP 作成のほか、図書館ホームページの使い方などを学ぶ時間をプログラムに組み込み、図書館について理解を深めてもらうことができた。また永山図書館では、職場体験と市民向けのオンラインデータベース利用講座の日程が重なったため、生徒に講座の見学をしてもらいオンラインデータベースについて知ってもらうきっかけ作りができた。

3 多文化サービスの充実【企画運営担当・子ども読書支援係・サービス係・関戸図書館・永山図書館】

- ・ 外国語の児童書や一般書、日本語学習資料を購入し、国際交流センターと連携し、市内在住外国人に配布している情報誌に外国語資料や日本語学習コーナーなどを紹介する記事を掲載してもらい図書館を PR し、図書館を利用するきっかけ作りができた。
- ・ 日本語を学ぶための資料を集めた日本語学習コーナーを本館に設置した。
- ・ 外国語資料や英語学習用の多読用資料を購入し、充実を図り、令和元年度購入の外国語の絵本、多読用外国語資料等のリストを図書館ホームページに掲載するとともに、授業での活用に向け学校へも周知した。またリストの検索方法について「学校図書館だより」への掲載を依頼し、小学校 5 校、中学校 2 校に掲載してもらうことができた。このことにより保護者への PR もできた。
- ・ 関戸図書館では児童向け外国語資料について整理するとともに、面出し展示等の工夫をし、利用されるよう PR を図った。通路に面した書架に面出し展示をしたことで、手に取って閲覧する利用者の様子が見られた。また、面出し資料の貸出効果があった。
- ・ 外国人など言語での会話が困難な方への活用を目的に“コミュニケーションボード”を永山図書館に設置した。コミュニケーションボードとは簡単なイラストを指でさしながら意思を伝えることができるツールでカウンター対応のバリアフリーを目指す。まだ該当事例はないが今後活用していく予定である。

図書館協議会評価・意見	【図書館協議会の評価・意見】〔評価 A 〕 全般 ・ 取り組み内容を総合的に評価すると、A 評価である。ただし、自己評価できていない点があること、委員から見て物足りない点があることから、今後の取り組みに期待したい。 ・ 当初、図書館からの自己評価の記述が少なく、評価が難しかった。 ・ 図書館を利用していない市民へ働きかける取り組みとして、赤ちゃん、子ども、ティーンズ向けは効果を上げたと思うが、成人向け、高齢者向けの事業はほとんど触れられていない。重点目標でないからか。 ・ 働いている人を含めた成人、高齢者、障がい者を対象に基本的な貸出を充実させるためには、資料費の充実や選書力の向上による資料の充実が基本的サービスとなる。これを重点化することで近年下がり続けている貸出数減少を少しでも上向きにすることができると思う。新しい利用者を増やすためのイベントの実施は目立つ事業であるが、基本を充実させることはもっと大事だと思う。 ・ サービス対象が絞られている傾向にある。取り組みの 1 つにホームページの充実が掲げられているが、この事例のように全く図書館と接点のない利用者へ働きかける目標が具体的にもっとあるとよい。 ・ だれもが使える図書館という視点はよい。高齢者は本館への来館に困難を抱えているので、駅からのアクセスに配慮があるとよい。 1 乳幼児を連れた保護者への配慮 ・ 平成 30 昨年度、設備面の具体的な変更等が提示できなかったが、令和元年度は図書館本館再整備基本・実施設計のなかで、乳幼児を連れた保護者が利用しやすいようにさまざまな工夫が計画された。また既存館においては、親子が利用しやすいようレイアウトの変更が行われるなど、さまざまに工夫されたのは評価できる。 ・ 図書館の活動に関する情報を地域の保育園などにもっと流してほしい。唐木田児童館からは児童館おたよりが毎月届き、行事などがわかる。 ・ 乳幼児を連れた保護者向けのレイアウトの改善等、図書館が課題を認識し、その解決に向けた活動に着手できた点はよい。また、永山図書館での利用登録への配慮、各館におけるイベントの機会を通じたさらなる広報展開も評価できる。 ・ 基本目標 1 で掲げた乳幼児を連れた保護者への配慮の目標は、基本目標 2 の子どもへのサービスの充実に入る内容なので、令和 3 年度は移行したらどうか。赤ちゃん向けサービスは未来の利用者に繋がることから重点目標といえる。だからこそ 5 つの基本目標の 1 つになっている。 ・ 本館の蔵書の中に、現在の保育現場とかけ離れている古い本が多く見られる。新しい情報にアクセスできるようにしてほしい。
-------------	--

図書館協議会評価・意見	2 若年世代の利用促進 - グループ学習スペースの開放はよい取り組みであったが、具体的にどのように利用されていたのか、今後も続ける意義があるかどうか、図書館として評価してもらいたい。 - 本館のティーンズコーナーは、一般利用者とも離れているため話しながら学習している様子を見かけた。他方、関戸図書館の場合、一般利用者がそばにいるため、子どもたちが気を使ってしまい、話してもよいという図書館側の意図が伝わっていなかったのではないかな。 - ティーンズ向けの展示内容は、学校司書が参考にしているので、さらなる充実を期待したい。 - 永山図書館の軽読書コーナーのティーンズ向け企画展示は新しい取り組みであるが、目立ちにくいので工夫の余地がある。図書館へ誘導できたかどうかという視点からの検証も必要であろう。 - ホームページのティーンズのページに本館企画展示が掲載されたこと、ティーンズが親しみを持つイベントや事業が進められていること、職場体験も数多く受け入れ、工夫されていることから、若手世代の利用促進に繋がるのが期待できる。 - 若年世代の図書館利用促進に関連して、ホームページと企画展示を連動させたことはよい取り組みであった。ページのデザインもよく、他のページにリンクでき見やすく、充実していると評価したい。なお現在、ホームページでは企画展示の内容が閲覧できないようである。継続して見られるようにしてはどうか。 - 職場体験は、令和2年度は中止となったが、生徒が図書館で職場体験することにより、学校図書館の運営にも生かせるなどの効果がある。今後の継続を期待したい。 3 多文化サービスの充実 - 関戸公民館に国際交流センターがあることから、関戸図書館に日本語学習資料コーナーを置くことを検討してはどうか。 - 日本語学習資料コーナーを設置したことによる影響を分析、評価することで、成果指標を示せるのではないかな。
今後の方向性	- 図書館を利用していない市民への利用促進の取り組み、広報を充実させる。 - 外国語（学習）資料の収集を継続するとともに、利用状況を把握し、関連部署と連携して利活用につなげる。

基本目標（２）子どもへのサービスの充実

【取り組み４】第三次子どもの読書活動推進計画の推進

- 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画に基づき各施策を推進する。また、計画期間の６年間を見渡した上で、令和元年度は次の推進事項について重点的に取り組む【継続】
- 図書館ホームページにおける児童、ティーンズ、学校関係者等へ向けた情報提供の充実【継続】
- ティーンズ向けの展示の工夫【新規】
- より利用しやすい団体貸出制度の検討、実施とPR【新規】
- マルチメディアデジの貸出促進のための環境整備【新規】

【図書館の取り組み・自己評価】[評価 A]

４ 第三次子どもの読書活動推進計画の推進【子ども読書支援係・サービス係・企画運営担当・永山図書館】

- ・平成30年度アクションプランの振り返りとプラン改訂を実施し、令和元年度版を作成した。（令和元年度版から市立小中学校分についても、図書館・関係課分と同様に、全学校分を掲載した。）
このアクションプランを図書館内・関係課の担当者、市立小中学校の司書教諭、学校図書館司書が活用することで、計画期間全体を見据えながら各施策を計画的に推進することが出来ている。
- ・第三次多摩市子どもの読書活動推進連絡会1回、小・中学校連絡会1回、市民ボランティア連絡会4回、庁内連絡会1回を開催することで、計画推進についての課題や取り組みについての情報共有が出来た。
- ・第三次計画の施策実現に向けて、学校でのおはなし会のボランティア活動や教員研修の状況、ブックリスト「よんでみよう」改訂への意見等の情報収集、情報共有のために全小中学校へアンケート（各学校の実態調査）を実施した。令和2年度は、集計結果を学校と共有し施策の推進に活かしていく。（新規）
- ・図書館ホームページのティーンズのページの充実を図るため、本館のティーンズ企画展示内容を掲載した。（再掲）
- ・永山図書館では軽読書コーナーに掲示板を設置し、ティーンズコーナーの企画展示を紹介し図書館内へ誘導するためのPRをした。（再掲）
- ・東寺方図書館ではティーンズコーナーの資料紹介のレイアウトを工夫し面出し展示を多くするなど、ティーンズ利用者が本を手に取りやすい環境を整えた。（再掲）
- ・要望の高かった団体貸出用のセットを作成し、学童クラブに対し前期と後期の2回貸出を実施した。いずれも好評で用意した各10セットすべて貸し出しされた。令和2年度は児童館向けにも実施するため、事前アンケートをとり、要望を聞き取った。内容を選書に反映させる予定としている。

図書館の取り組み・自己評価	・ マルチメディアデিজリーの貸出促進のため、貸出に関するシステム改善について検討を行った。令和2年度にシステム担当と改善に向け引き続き検討していく。 ・ 「支援の必要な子どもたちへの取組み」としては、多摩市特別支援教育推進計画改定における市民ワークショップ会場で支援の必要な児童、生徒向けの図書としてマルチメディアデিজリー図書等の展示と説明を行いPRした。また学校図書館及び特別支援学級へ、LLブック、大活字本等のセット貸しを開始し、マルチメディアデিজリーやLLブックや大活字本の認知を高めることができた。 ・ 特別支援学校の児童が他県の特別支援学校の教員や地域の大人・保育園児におはなし会を行うため、永山図書館職員がおはなし会を実演し、特別支援学校でのプレ発表でアドバイスを行った。児童が「保育園の子どもたちにわかるように読むにはどうしたらよいか」等熱心に質問していた。プレ発表では当日は絵本「はらぺこあおむし」をテーマに導入の手遊びや読み聞かせ、ぬりえなどのワークショップを行っていた。言葉を発するのが難しい児童もとてもよく練習したとのことで、上手に読みきかせができていた。おはなし会運営のアドバイスのお礼として手作りのはりえを図書館に寄贈していただき、図書館への感謝の言葉とやり切った誇らしげな笑顔が印象的だった。
図書館協議会評価・意見	【図書館協議会の評価・意見】〔評価 A 〕 ・ 基本目標1で取り上げている対象に基本目標2の対象になる子どもが含まれているために、再掲となっている。基本目標2にまとめることはできないか。 ・ おおむねよいと思うが、図書館の具体的な行動内容が見えない。例えば、平成30年度の協議会で「へなそうるのへや」について知ったことで、保育士がよみきかせに「もりのへなそうる」を提案するといったことに繋がった。図書館は、おはなし会や展示など、実施していることを見える化していくことが大事である。 ・ アクションプランを作成することで取組みが見える化され、よいと思う。アクションプランの作成にあたっては、行政と市民ボランティアの位置づけを明確にし、市民ボランティア連絡会とも情報共有して計画を進めてほしい。 ・ 設定した目標に対して、いずれも多様な取組みがあり評価できる。特に、学童クラブへの団体貸出が好評であったことは、ニーズの掘り起こしとともに、今後の可能性を明らかにできた点で高く評価できる。 ・ いずれの取組みでも積極的な広報であったり、対象者に対するきめ細かな対応が見られたりする点で評価が高い。 ・ 各種連絡会の開催を通じた情報共有、そのための各学校の実態把握を目的とする全小中学校へのアンケート調査を先ず実施したことなど、図書館から積極的に働きかけたことは評価できる。 ・ 学校図書室を充実させるために図書館ともっと連携をしてほしい。

図書館協議会評価・意見	・ 図書館ホームページや各館におけるティーンズの展示企画を充実させた点は評価できる。 ・ 利便性を高めるために団体貸出制度の検討・実施が行われた点、マルチメディアデিজリーの貸出促進のための貸出システム改善の検討が行われた点は評価できる。後者は令和 2 年度にも継続実施されるとのことで、その取り組みに期待したい。 ・ 新型コロナウイルスに関わる対応は、評価に直接関係しないが令和元年度の事業へも影響することから、以下にまとめて記すこととする。 ➤ 本の貸出や返却方法は個々の学校に任せられている。図書館はどうしているのかなど、学校図書館の参考になる情報を図書館から発信してもらいたい。 ➤ 保育園でも、コロナの影響で持っている本を貸したり、親子で読むスペースを利用したりできない状況であり、対応について悩んでいる。図書館にはこういった悩みにもこたえられるよう正確な情報を発信してほしい。 ➤ 今後この状況は 2、3 年続くのではないか。その中で子どもの読書について考える必要がある。
今後の方向性	・ 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画をアクションプランに基づき、着実に推進していく。 ・ 感染防止対策を図りながら読書活動を推進する事業を検討、実施していくとともに、学校、幼稚園、保育園等の子どもの読書活動に関わる関係機関に積極的に情報発信をしていく。 ・ マルチメディアデিজリーや L L ブックの認知を高め、貸出を促進する。

基本目標（３）市民や地域に役立つ図書館

５ 読書活動に取り組む団体の支援

○利用促進のため、団体貸出におけるセット貸出を実施する【新規】

６ 読書活動振興のためのイベントの開催

○読書活動を拓げるために市民参加型のイベントを開催する【継続】

７ 読書活動に関心を高めるための事業の実施

○新たな本との出会いの機会として、各館で企画展示を実施する【継続】

８ 地域資料の活用による地域文化の継承

○パルテノン多摩、教育振興課との連携による企画展示、講演会等を実施する【継続】

○多摩市を紹介するコーナーを設置する【新規】

図書館の取り組み・自己評価

図書館の取り組み・自己評価【評価 A】

５ 読書活動に取り組む団体の支援【企画運営担当・子ども読書支援係】

- ・ 要望の高かった団体貸出用のセットを作成し、学童クラブに対し前期と後期の２回貸出を実施した。いずれも好評で用意した各 10 セットすべて貸し出しされた。令和２年度は児童館向けにも実施するため、事前アンケートをとり、要望を聞き取った。内容を選書に反映させる予定としている。（再掲）
- ・ 支援が必要な児童、生徒向けの資料として LL ブックや大活字本、マルチメディアデージーなどのセットを作り、学校図書館、特別支援学級への貸し出しを実施した。マルチメディアデージーや LL ブックや大活字本の認知を高めることができた。
- ・ 子どもの読書活動の支援に協力したい市民等を対象とする読み聞かせ講座を実施した。読み聞かせ中級編、はじめての読み聞かせフォローアップは初めての実施である。

６ 読書活動振興のためのイベントの開催【企画運営担当・子ども読書支援係・各館】

- ・ 平成 30 年度に引き続き読書活動の関心を高めるイベントとして、ビブリオバトルを大妻女子大学 OLIVE（サークル）との共催で 11 月 10 日に永山図書館で実施した。令和元年度は、中高生の参加を促すために新たに中高生の部を新設し、一般の部との２構成で実施した。参加者は見学者を含め、それぞれ多くの参加があり、本と人を通じた新たな出会いにつながった。またチャンプ本を地域コミュニティ紙「タウンニュース」の図書館のおすすめ本コーナーの番外編としてバトラーによるおすすめとして紹介し、読書について関心を高めることができた。また平成 30 年度の事業評価で取り組み 7 としていたが、「読書活動振興計画」を再確認し取り組み 6 の誤りであったことから令和元年度は取り組み 6 とした。
- ・ 新たな本との出会いを提供するイベントとして「本の福袋」を全館で実施した。
- ・ 小学生向け夏休みイベント「一日図書館員」の実施において、定員を増やし受付方法を改善したことから、より多くの小学生に参加してもらうことが出来た。

図書館の取り組み・自己評価	7 読書活動に関心を高めるための事業の実施【サービス係・地域資料係・各館】 ・ オリンピック・パラリンピックに関連した展示としてアイスランドを紹介する展示をおこなった。永山図書館で行った展示をリレー展示し、本館、豊ヶ丘図書館でも展示し、ホストタウンであるアイスランドについて市民に広くPRができた。永山については主題を変えて展示を2回行い、より関心を高めることができた。キャプションも工夫し、本もよく手にとられていた。永山公民館からもアイスランドのイベントの参考になる本を紹介してほしいと希望され、ブックリストを提供した。 ・ オリンピック種目であるロードレースをテーマにコースに隣接している聖ヶ丘図書館で企画展示をおこなった。時期をひじり館とのイベントと合わせて設定し、好評だった。 ・ 地域資料係と教育振興課との連携企画展示を実施。地域資料係と協力して、関戸図書館で特別講座の内容に関わる資料に加えて、テーマに沿った郷土行政資料を更に選書して展示。郷土行政資料に関心を持たない利用者にも興味を持ってもらえるような紹介ができた。 8 地域資料の活用による地域文化の継承【地域資料係・各館】 ・ パルテノン多摩企画展示「多摩ニュータウンのトイレ建築と、地域のトイレの変遷」と連携し、企画展示「トイレあれこれ」を実施した。また、教育振興課文化財係と連携し、企画展示・特別講座「遺物・出土品から多摩の歴史を探ろう」を実施した。歴史的な地域資料を活用し、地域文化を伝えることができた。 ・ 多摩市をコンパクトに紹介する資料をピックアップして展示する「多摩市を知るコーナー」を全館に設置した。利用者に身近な地域資料を紹介し、多摩市をPRすることができた。
図書館協議会の評価・意見	【図書館協議会の評価・意見】【評価 A 】 全般 ・ 読書活動振興、地域資料の活用という観点から、さまざまな取り組みが行われ、多くの利用や参加者があったことは評価できる。 ・ 大妻女子大学、パルテノン多摩及び教育振興課との連携など、他機関との協働に積極的であることも評価が高い。 ・ 平成30年度は7に入れていたビブリオバトルを、今回6に位置を変えた意図はなにか。6と7の実施の違いがわかりにくい。また、図書館主催のイベントを6に、他団体との協力イベントを7と位置付けていた。基準を明確にしたほうがよい。 ・ 読書活動振興計画と事業計画の位置づけを整理する必要がある。 ・ 基本目標として掲げたテーマがこの範囲にとどまってよいかどうかは検討の余地がある。 ・ 今後は読書活動振興の視点や高齢者、福祉の視点での取り組みがあってもよい。

図書館協議会の評価・意見	5 読書活動に取り組む団体の支援 - 学校図書館司書が団体貸出などで相談にのってもらい助かっている。調べ学習の本など新しい本も貸し出してもらいたい - 支援が必要な児童、生徒向けに、LL ブック、大活字本、マルチメディアデージー等でセットを作り、学校図書館、特別支援学級へ貸し出すことは、社会教育施設に相応しい事業である。子どもの読書活動支援の協力市民等に初めて実施した読み聞かせフォローアップは、読み聞かせ会の質的向上に繋がり、評価できる。 6 読書活動振興のためのイベントの開催 - 大妻女子大学と共催するビブリオバトルは、平成 30 年度の図書館事業評価を踏まえ、中高生の部を新設し、2 部構成にするなど工夫が見られた。大人の部でも中高生の部でも、発表者は本に情熱を持ち、分りやすく語り、多くの参加者、出席者の読書域の拡大に繋がったのではないかと期待できる。 - 多摩市立図書館全館で実施される「本の福袋」は、国分寺市の図書館でも読者からの好評が報告されたプログラムであり、息の長い活動を期待する。 7 読書活動に関心を高めるための事業の実施 - オリンピック・パラリンピック関連の展示として、多摩市がホストシティであるアイランドを紹介する展示がいくつかの図書館でも行われ、好評であったが、同じようなオリンピック・パラリンピックを巡る展示が行われたことも評価できる。 - アイランドを紹介する展示はとてもよかったが、大人向けだけでなく絵本も一緒に紹介できたらもっとよかった。永山公民館が主催事業として、オリンピック・パラリンピック関連で子ども向けにアイランドを応援する取り組みを予定していたが、多摩市文庫連絡協議会が調べたところ複数の絵本が所蔵されていたので情報提供した。 - パルテノン多摩企画展示「多摩ニュータウンのトイレ建築と、地域のトイレの変遷」と連携し、企画展示「トイレあれこれ」が実施され、好評を博した。これらは地域づくり、戦後の生活史の学習面で有意義な試みであった。 - 多摩市を知るコーナーを本館だけでなく各館に設置したことを評価したい。本館の展示は場所がわかりにくいので、書架の横にサインを貼るなど工夫があるとよい。 - 行政資料室の資料の一部が土日に本館で閲覧できることはとてもよい。
今後の方向性	- 学童クラブ、児童館へのセット貸出について、利用状況を把握しながら引き続き実施する。 - 感染防止対策を踏まえた読書活動振興のための取り組みを検討し、実施する。 - 教育委員会文化財担当、パルテノン多摩振興財団と連携し、地域資料、貴重資料のデジタルアーカイブの構築に取り組む。

基本目標（４）しらべるを支え、つながる図書館 ９ 地域課題解決の支援 ○地域課題解決のため、各課連携企画展示を実施するとともに、各課の協力により図書館でイベントを実施する【継続】 ○調べものに役立ててもらうため、パスファインダーを作成、配布する【継続】 10 デジタル資料の提供 ○オンラインデータベースの利用促進を促進するため、市民向け講習会を開催する【新規】 ○新たな情報提供のあり方として、電子書籍サービスについて研究する【継続】	
図書館の取り組み・自己評価	【図書館の取り組み・自己評価】〔評価 A 〕 ９ 地域課題解決の支援【企画運営担当・サービス係・各館】 - 平成 30 年度に引き続き各課の取り組みに連動した展示を 18 課と連携し、28 のテーマで各館、係で実施した。展示を実施するにあたっては当該課の担当者に推薦図書や企画の意図を聞き取り、テーマに即した図書の購入も行い展示に生かした。市民への情報提供だけでなく、庁内各課に地域課題に対する図書館の役割について認知を高めることができた。 - 連携企画展示や多摩市にゆかりのテーマでパスファインダーを 2 テーマ作成した。またこれまでに作成したパスファインダー 9 テーマを本館カウンター近くにまとめて設置し、利用者が手に取りやすいようにした。ブックリストを作成し、講演会や平和展などに貸出をする本と一緒に展示することにより、テーマの本を知ってもらおうと共に図書館について P R することができた。また図書館ホームページで公開しているテーマ別の図書リストにおすすめの外国語の本について新たに掲載し、市民が外国語の本について情報を得られやすくした。 10 デジタル資料の提供【企画運営担当・地域資料係】 - オンラインデータベースの利用促進を促進するため、データベースの使い方講座を 11 月 28 日に市民向けに永山図書館を会場にして開催した。法律情報の参加者は少なかったが、経済情報データベースの参加者からは図書館で使ってみたいなどの感想があり、知ってもらう機会となった。 - 電子書籍に関する講演会や催しへの参加などで情報収集をおこなった。また地域資料等のデジタルアーカイブの構築に向け検討し、令和 2 年度予算に計上した。
図書館協議会の評価・意見	【図書館協議会の評価・意見】〔評価 A 〕 全般 - 基本目標に対する図書館の取り組みとして、一定の成果はあげられている。 「つながる図書館」は大事なキーワードであるが、この点に関わる活動や成果が見られない。データベース講座の成果の視点をもっと大きく持ってほしい。 - 基本目標からすると、その目指すべき目標設定が小さいのではないかな。もっと大きな目標を立てられると考える。

図書館協議会の評価・意見	9 地域課題解決の支援 ・ 連携企画展示で実施した内容が課名からだけではわからない。テーマ内容もわかるように見える化してほしい。 ・ 平成 30 年度に続き連携企画展示を実施したこと、当該課担当者から企画の意図や推薦書を聞き取り、展示に活かすことで、市民の情報提供、地域課題の認知に役立て、また図書館の役割について認知を高めることができたことは高く評価できる。今後も進めてほしい。 ・ 連携企画展示などを基にパスファインダーを継続して作成、配布する取り組みは評価できる。パスファインダーを設置する場所のサインについて工夫があるとよい。また、他の図書館でもパスファインダーを設置するなど改善の余地がある。 ・ 各テーマのブックリストの作成に関して、その場限りでなく、のちの職員が同じテーマで取り組むときに参考資料となるよう、継続的、体系的に保存していったほしい。平和展など継続している展示で作成した展示リストは、担当職員が異動しても継続できるようにしてほしい。特に地域資料は多摩市にしかないものなので、継続的な取り組みは他にないコンテンツづくりに繋がる。 ・ ブックリストの掲載など、その取り組みの成果を図書館ホームページで積極的に公表してほしい。その際、OPAC 連動もよいが、一覧性（ある程度数を絞っての紹介）も検討の余地がある。 10 デジタル資料の提供 ・ データベースの使い方講座は、近年ますます必要性が増している試みであることから、時宜を得た企画であった。 ・ データベースの使い方講座は、参加者が少なくとも、その有用性を市民に知ってもらうよい機会である。現代のような情報社会であれば年に複数回、継続して実施してほしい。また、これをきっかけに図書館利用に繋がったことは評価できる。
今後の方向性	・ 各課や地域の機関と連携し、地域課題に関わる資料を積極的に収集し、テーマ展示やパスファインダー、ブックリストの作成、図書館ホームページでのリストの紹介などにより情報発信を行い、市民の課題解決のための情報提供をおこなう。 ・ オンラインデータベースの利用促進のため、感染防止対策に留意しながらできる方法を検討し、利用講座など実施する。 ・ 教育委員会文化財担当、パルテノン多摩振興財団と連携し、地域資料、貴重資料のデジタルアーカイブの構築に取り組む。（再掲）

	基本目標（５）弾力的な管理・運営 11 本館の機能強化 ○図書館本館再整備基本・実施設計に取り組む（平成 31（2019）年 2 月～令和 2（2020）年 3 月）。 【継続】 12 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービスの向上 ○平成 30 年度図書館第Ⅴ期コンピュータシステム稼動により、平成 30 年度に実施済み。令和元年は新たな機能追加の提案について随時検討する。 13 職員体制の見直し ○新本館再整備に向けて業務分担や職員体制の見直しをする ○専門性の向上のため研修を実施する 14 ボランティア活動の促進 ○ボランティア活動の促進について検討するため、他市のボランティア受入状況について情報収集する 15 事業計画の策定と点検評価 ○平成 30 年度事業計画に対し、事業評価を行う ○令和 2 年度の事業計画の策定に向けて、貸出、予約、相談（レファレンス）の現状を分析する 16 ICTの活用 ○サービスの向上と効率化のために I C タグシステム導入に取り組む。 17 蔵書の適正管理 ○新本館の開館に向け、蔵書計画を策定するとともに、選書体制を整える。 ○新本館開館を視野に入れ、書庫を中心に蔵書の適正化を図る ○貸出冊数の上限の見直しを検討する
図書館の取り組み・自己評価	【図書館の取り組み・自己評価】〔評価 B 〕 11 本館の機能強化【本館再整備担当】 - 基本設計については、平成 31 年 2 月に着手し、市と設計者の検討に加えて、ワークショップや市民説明会の市民意見も参考にしながら、令和元年 7 月にまとめた。これを基に 8 月から実施設計に取り組み、今後の建設工事に向けて、さらに建築技術面の検討を深めた。当初、令和 2 年 3 月の完了を目指していたが、設計の一部を修正する必要性が生じたため、業務期間を令和 2 年 5 月まで延長している。当初の予定に実施設計が完了しなかったため、評価を B とするが、今後の建設工事の着工や工期のスケジュールには変更が生じないよう調整している。 12 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービスの向上【企画運営担当】 - OPAC での予約する際の予約かごの使い方がわかりにくいとの利用者の声が多かったため、予約の仕方を案内したチラシの内容を見直し更新した。予約の仕方についての問い合わせに活用ができています。 - 運用しているシステムについて新たな機能の提案があった際には随時検討し、必要な機能についてはプログラム更新し適用した。

13 職員体制の見直し【企画運営担当】

- ・ 新本館再整備に向けて業務分担や職員体制の見直しを検討したが、実施にはいたらなかった。
- ・ 都立図書館などが主催するレファレンス研修などの外部研修への派遣のほか、課内研修を実施した。課内研修では、例年実施している読み聞かせ講座のほかに外部講師を招き認知症対応や国立国会図書館デジタルコレクションなどを学ぶ研修を行い職員の専門知識を高めた。

14 ボランティア活動の促進【企画運営担当】

- ・ おはなし会や障がい者サービス以外のボランティアの受け入れ状況の情報収集のため、北区立中央図書館を視察し、情報収集した。ボランティアが活動している部屋の状況や図書館との関わり方などの状況を聞き、検討すべき課題などを認識し、今後の参考とした。

15 事業計画の策定と点検評価【企画運営担当】

- ・ 平成 30 年度事業計画に対しての事業評価を自己評価、外部評価を行い、決定した。

16 ICTの活用【企画運営担当】

- ・ 令和 2 年 10 月から、関戸図書館・永山図書館で IC タグ関連機器の運用開始を目指している。その一環として、全館全資料（約 78 万点）に IC タグを貼付・エンコードする業務委託を令和 2 年 1 月に締結し、作業に向けて準備を進めた。また、関連機器の借上げと保守、導入支援に係る経費を令和 2 年度予算に計上した。10 月の運用開始に向けて、順調に進んでいると考える。

17 蔵書の適正管理【企画運営担当】

- ・ 新本館図書館での配架の検討、蔵書構成について検討を進め、全体会などで方向性を示した。令和 2 年度から 3 年間で新本館図書館用図書を購入していくため、選書体制について引き続き、検討し実施する。
- ・ 書庫の廃棄を通常の廃棄保存会議の以外にも分野を特定し実施し、実用書を中心に廃棄を進め、新本館図書館へ移行する資料の選別を進めることができた。
- ・ 蔵書の適正な管理のために多摩市在住、在勤、在学の個人及び団体（読み聞かせ等の団体を除く）の貸出冊数の上限について見直しをおこない、改正のための規則、要綱の改正案を図書館協議会及び教育委員会で協議、採択された。広報は 3 月 1 日から開始し、施行は令和 2 年 6 月 1 日とする。

【図書館協議会の評価・意見】[評価 B] 全般 ・ 取り組むべき課題をよく認識し、着実に取り組みを進めようとしているが、不測の事情により目標の達成レベルに至らなかったものがあるなど、評価できるところとできないところがある。 ・ 「13 職員体制の見直し」のように、実施に至らなかったものもあるが、全体として図書館の円滑な運営にあたり解決すべき課題を確認し、それに1つひとつ取り組んだ点は高く評価できる。 ・ 11 は不測の事態も起こりうることから、その後の対応を考えて評価したい。他方、13 への取り組みは十分とは言えず、今後に期待したい。 11 本館の機能強化 ・ 実施設計の一部修正について、令和2年度5月まで延長して無事に建築申請許可が得られたので、それに至る関係職員の努力を評価したい。結果は大きな修正とならず、今のところ工事スケジュールに変更が生じていないので安堵しているが、設計事業者の技術的な判断に問題がなかったのか検証する必要はないか。よくも悪くも事実を検証することは、今後の建設に向けて見落としなく進めるために大事なことと考える。 ・ 市民団体の要請に応じて、12月1日に本館再整備担当課長と館長も同席して、新本館図書館整備について説明の機会を設けるなど、市民協働で進める姿勢は高く評価できる。 12 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービスの向上 ・ 利用者の声を受けて案内チラシを見直すなど、サービスの向上が確認できる。 13 職員体制の見直し ・ 職員体制の見直しが実施に至らなかったことは残念である。新本館開館に合わせて、引き続き図書館運営に必要な業務分担や職員体制等を着実に検討してもらいたい。 ・ 職員体制の見直しの検討に、唐木田図書館の窓口業務委託の見直しは含まれているのか。実施にいたらなかったとの報告で、時間的な制約で行うことができなかったと理解しているが、今後の開館までのスケジュールが間に合うのか心配である。	
今後の方向性	・ 中央図書館（新本館）の整備事業に着実に取り組む。 ・ 中央図書館（新本館）の開館に向け、選書体制を整え計画的に選書に取り組む。